

発行日：2016年4月1日

障害者総合支援に考えること

助 法律事務所 弁護士
社会福祉法人もえぎの会 評議員
柏谷秀男



障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(平成17年11月17日制定、平成26年6月25日最終改正、略称：障害者総合支援法)は、障害者及び障害児が基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活又は社会生活を営むことができるよう、必要な障害福祉サービスに係る給付、地域生活支援事業その他の支援を総合的に行い、もって障害者及び障害児の福祉の増進を図るとともに、障害の有無にかかわらず国民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与することを目的とする。)(同法第1条目的)と規定する。

障害者総合支援第1条(目的)に応じて、社会福祉法人もえぎの会の定款第1条(目的)は、「多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として」、第二種社会福祉事業「障害福祉サービス事業の経営」を行うと定める。

問題は、総合的支援の内容で、日本の経済情勢と比例して、人的にも財政的にも、もえぎの会の運営は厳しく、沢山の方々の理解と支援があっても、目指す状態の見通しが立たない。しかし、利用者もスタッフも、明るく黙々と活動していて、評議員としては、もう少しよくしてあげたいと思う。

特に、共同生活援助(グループホーム)サービス事業の開設は、高齢化社会到来を目前にして、必要性が高い。特別養護老人ホームに比べてメディアに取り上げられることがなく、行政は適切に判断されているか疑問に思うことがある。

目黒区は、中学校の跡地にグループホーム建設計画が発表され、誠に喜ばしいが、これですべて満たされるわけではない。今後とも、目指す状態を一緒に作り上げることが期待される。

柏谷秀男さんは、2015年秋の叙勲で、二ノ宮啓吉さん、青木功さん、北大路欣也さん等とともに、旭日小綬章を受章されました。おめでとうございます。

2016年度 もえぎの会 事業報告会・懇親会のご案内

下記のように本年度の開催を予定しております。

7月23日(土) 目黒区総合庁舎 2階大会議室

改めて、ご案内をお送りいたします。ぜひ、お誘いあわせの上、ご出席していただきますようお願い申し上げます。



昨年の様子

しいの実社 2016年度事業計画

しいの実社は、昨年度より、利用希望者を受け入れ、効率的な運営をするために、定員を56名に増やし、2施設として運営しています。無認可の作業所として開始して、30年以上経過し、地道な実践の積み重ねにより、多くの皆様に支えられ、今日に至ることができました。そこで、しいの実社への入所を希望される方の要請に応え、しいの実社の社員のニーズによりきめ細かく応えるために、施設の拡張は、今後とも課題となります。

2016年度は、新施設長の就任をはじめとする組織の変更、権限の委譲、業務の改善など、大胆な改革により、新たな段階に入る計画としました。「個の充実」をイヤーモットーとし、社員・スタッフ自身が向上を目指すとともに、個々の活動、支援の充実を目指します。結果として、連携体制の強化、業務負荷の軽減、支援の向上、スタッフの定着を実現したいと考えております。

社員の平均年齢は、42歳と、はじめて40歳を超え、18歳から75歳まで、幅広い年齢の広がりとなっています。そのため、年齢を考慮した活動が求められ、殊に、高齢化・重度化への対策が喫緊の課題です。

● しいの実社(定員 30名)

就労継続支援B型事業(定員 10名)

施設外活動の企画

活動の安定的供給

生活介護事業(定員 20名)

社員の安定した生活の支援

体力向上、生活を広げる活動

● しいの実社 学芸大学スマイルプラザ

(定員 26名)

就労継続支援B型(定員20名)

仕事の安定提供

高齢者向けサービスの試行

就労移行支援事業(定員 6名)

就労に向けた取り組み

生産維持と社会参加

しいの実社	30名
生活介護事業	
しいの実社	20名
就労継続B型事業	
しいの実社	10名
しいの実社 学芸大学スマイルプラザ	26名
就労継続B型事業	
しいの実社 学芸大学店	10名
しいの実社 スマイルプラザ	10名
就労移行支援事業	
しいの実社 スマイルプラザ	6名

2施設運営といっても、年間行事の社員旅行、しいの実祭、11施設交流会をはじめ、土曜開所などの余暇活動、社員の高齢化対策や健康管理のための健康診断、健康相談や健康体操などは従来通り、全体で実施します。

特に、高齢化対策は、しいの実社だけの問題ではなくて、行政、関係機関や他施設と連携して、日常生活、社会生活に加えて、将来設計を合わせて実践できるようにします。そのため、積極的に目黒障害者自立支援協議会に参加して、厚労省の政策を確認しつつ、目黒区の施策を進め、地域ネットワークを充実させるため、実践の計画、人材の育成に努めます。

他にも、地域とのつながりを強化し、地域の要請に応えるために、町会、商店街、後援会と連携して、地域のイベントへの積極的な参加や小学校、中学校の職場体験や施設実習、特別支援学校の実習を受け入れ、土曜日開所の昼食を地域のお店で取るなど地道に理解を深くする活動を継続していきます。

第14回 しいの実祭 開催

2015年11月28日(土)にしいの実祭を開催し、1600名を超える人が参加しました。お隣の白川電機さんが壁面工事完了の見通しがつかない日程となり、不安いっぱいの中で準備をすることとなりました。

結局、直前になって、使わせていただけないことが確定しました。例年、目黒区の障害者施設の製品販売や後援会のバザー会場でしたので、困惑の中、急遽、近くのSTUDIO iiwi(スタジオイーヴィ)さんの玄関前をお借りできました。近隣の皆さまの温かい配慮があって、スタッフ一人ひとりの踏ん張りや家族会・後援会の献身的な活動により、スペースは少し減りましたが、面としては更に拡がり利用者・スタッフもお客様も笑顔いっぱいのしいの実祭となりました。

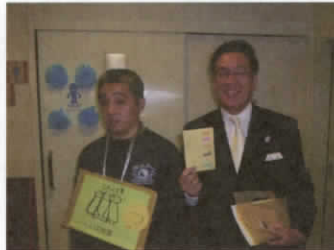
清水町会さんの焼きそばとフランクフルトは毎年人で、沢山の町会の皆様により期待に迎えていただいております。目黒区内の障害者施設による製品販売は、例年と違う場所になりましたが、多くのお客様にお立ち寄りいただきました。後援会のバザーは、場所を一部変更し、ご不便おかけする部分はありませんでしたが、大きな混乱もなく実施できました。恒例の豚汁に加え、新たにチョコバナナを加えることとなり、綿密に事前準備をして当日に臨み、お子様を中心に喜んでいただきました。

イベントコーナーでは、品川区を中心に活動する「でかばっぐ」さんのパネルシアターと社員のハーモニカ演奏で、小さなお子様喜んでいただけました。じゃんけんスタンプラリーやお子様向けのミニプレイコーナーも、好評でした。

多くの皆様にご協力いただいて実施する大きな行事であり、参加していただくお客様に加えて、利用者・スタッフも楽しいの実祭を、これからも開催したいものです。



大きなサインをバックに
オープニング



恒例!!
区長と増田さんの交流



子どもに大人気!
でかばっぐ



混雑する食堂

家族会新年会

もえぎの会は、たくさんのサポーターに支えられ、運営できています。後援会、ボランティア、町会、商店街、民生委員など多方面にわたります。その中で、最も身近な存在が、家族会です。

家族会は、しいの実社に通う社員を支援するために密接な関係を持っています。それに加えて、しいの実社の運営を支える強力なサポーターの役割があります。イベント販売の手伝い、しいの実祭のバザー・屋台、広報誌の発行、後援会運営の支援などで、多くの家族会会員の皆様にお世話になっています。

毎年1月に、家族会主催による新年会が開催されます。直接担当となる社員のご家族とスタッフは強い関係になりますが、それ以外は、普段なかなかゆっくり話することができないスタッフとご家族との貴重な懇親の機会になります。

業務終了後の夜の開催となり、全てのご家族が参加できるわけではありませんが、今後も継続して、しいの実社とともに支える絆を確認する場となることを願っています。



後援会

会員インタビュー

サ 萌 木

西郷歯科クリニック

目黒区中町1-26-11 1F

TEL 03-3713-3346

中町1丁目の目黒通り沿いにある西郷歯科クリニック。一見、歯医者さん？と思うくらいの楽しそうな外観です。ドアを開けると南国の雰囲気漂い、CGアニメーターで院長のご主人である家泉丹吾氏の色鮮やかなポストカードや作品も目に飛び込んできます。そして、にこやかに応対して下さる受付の方やお話を伺った三代目家泉育子院長はハワイを基調としたユニフォーム姿。「小さなお子さんはどうしても白衣が苦手な感じがしまして・・・」と、女性ならではの視点です。

「しいの実社とのお付き合いの始まりは、医院に製品を置かせていただいたのが始まりです。患者様に利用者の家族がいらっしゃり、しいの実社が製品を知っ

てもらった活動をしていると聞いたのがきっかけでした。我が家にも障害のある息子がいるので、製品を医院に置くことで何か力になれたらと思い、その後は後援会にも協力させていただきました。」とお聞きし、長いお付き合いを実感しました。院長は歯科医院を営み、障害のあるお子さんも含め三人のお子さんの子育てもしながら、目の回るような日々が続いてきたと思いますが、まずは自分が元気で健康でと始められたスポーツの話をうかがい、凛とした清々しさを感じたのは、「空手女子」が源なのだと納得！



家泉育子院長



西郷歯科クリニックのサイン

昭和12年に祖父西郷武雄氏が開業され、二代目のお母さまは昭和23年から平成14年まで精力的に診療にあたっていました。そして三代目の育子院長は「予防歯科」を重点に診察、治療を心がけていらっしゃいます。子どもの頃から、成人病にならない食事指導、年齢や生活習慣、歯質に添った一人ひとりの定期検診など、これからも地域に寄り添い、ご家族何世代にも渡って通われるみなさんのためにも、健康の入り口のホームドクターとしてご活躍をお祈りします。

有限会社 目黒印房

目黒区目黒本町2-6-12

TEL 03-3715-4731

<http://www.meguroinbou.co.jp/>

「お屋根に大きなハンコが乗ってるよ！」と、自慢げに指差した男の子の指の先に「目黒印房」の広告塔が見えます。いつか目にしたシーンを思い出しながら、その目黒印房に営業事務の宮島裕子さんをお訪ねしました。

昭和36年、大田区西蒲田にて、裕子さんのお父様である曾谷孚社長が創業され、平成元年に現在の地で営業され20年以上、印章、ゴム印、シャチハタ印、名刺やはがきの印刷を扱っています。社員は13名で西蒲田で製作、目黒本町は営業が中心です。裕子さんいわく、昭和10年生まれの「仕事人間」の孚社長は、仕事と子育てに奮闘中の裕子さんを気遣い、現役続行中です。「大手との違いを際立たせ、丁寧でしっかりした仕事を心がけ、待っているだけではなく、様々なビジネスシーンに具体的に提案や相談をして、専門性を活かし、販路の拡大を図りたい」と、力強く、明るく話される裕子さんに、孚社長のDNAが引き継がれています。



宮島裕子さん(中央)
ほか働く皆様



目黒印房 正面

しいの実社が目黒本町に移ってきて、パンフレットを置かせていただくお願いに伺ったのがお付き合いの始まりでした。「それまでは特に障害を持つ人との関わりはなかったのですが、近くだと身近な存在になりますね。ポイントカードももっています。」とお得意様でした。お店の前が通勤の道になっている社員に「毎日真面目に、通ってきて、ご苦労様」と声をかけていただきとてもうれしかったと、家族の方が話してくれました。地域の方が見守って下さっている、どこかで心に掛けて下さっていることは本当に心強い事です。これからもポイントカードの出番がありますよう、よろしくお願いいたします。

目黒区障害児・者の生活を向上させる会

目黒区鷹番1-14-11-101
TEL 03-3712-2408

寒さの中にも、暖かさを感じる冬晴れの日、ボーリング大会を控えた日本一個性的で精力的な車いすウーマン武田真希会長とサポートの斎藤さん、副会長の飯尾さんを交え、「目黒区障害児・者の生活を向上させる会」の歴史や活動などを伺いました。

会が産声を上げた1974年当時の障害福祉制度はまだまだで、「障害があるなしに関わらず、誰でも参加できる会」として出発しました。会員は、障害を持つ人の家族や一般の人、そして障害を持つ本人も一緒に「発達保障」「障害児者の生活に関わる権利の拡大」「福祉事業や制度の現状とあり方」などを話し合っていました。1991年から、レストランや公共施設のバリアフリーの進み具合を調べる「街づくり点検活動」で「ふれあいマップめぐろ」を作成しました。最近「老障介護」と言われますが、ヘルパー派遣のための実態調査も行いました。現在は、毎年8月に行われる全国障害者問題研究会、2月開催の障都連・都民集会などに参加します。レクリエーションでは、2泊3日で雪だる마스キーに行っていましたが、今は高齢化で難しくなりました。また、障害を持つ本人が原水禁世界大会に参加しました。8年前まで、鷹番ふれあいまつりを主催していましたが、現在は地域に分散し参加しています。バス旅行、保育士さん中心の料理教室、カラオケやボーリング大会なども開いています。

これからは、年代別に活動を考えることが課題です。そして、今まさにアブラの乗った武田会長と岡田事務局長の後続く人を育てることがこれからの武田会長の役割とおっしゃいます。また、区内に、ざっくばらんに話ができる場を作りたいと提案されています。



武田真希会長（中央）
（左）斎藤さん（右）飯尾さん

これまでの歴史を振り返ると、署名活動に、子どもを連れ、一軒一軒回り、5000筆を集めたとか。戦後を生き抜いた信念に裏打ちされた個性派の諸先輩の生きざまをお手本に、お互いのいいところを見出し前進できたらすばらしいとおっしゃる副会長の飯尾さん。悪い事だけを見ても何も生まれないということで、まさに同感でした。これからもよろしくお願いいたします。

新規後援会員をご紹介します

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、法人会員 10口以上
会費はお手数ですが、直接お持ち頂るか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会後援会

問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局（電話：03-5724-7153）

* 恐れ入りますが振り込み手数料はご負担願います。

沙羅の家開設10周年

世話人 長谷茂雄

沙羅の家は、今年の8月で開設10年を迎えます。当時、他にもグループホームは少なく、もえぎの会では初めての計画で、大変な苦勞をして開設しました。その後、2軒開設し、合計20名定員となり、目黒区で最大の運営事業者です。そして、今年度上半期をめぐに20名の入居定員に達するよう、現在新入居者の準備を順次進めています。

1ホーム入居者4名からスタートして、ここまでたどり着くには大変時間がかかり、いろいろな苦勞がありました。これまでの10年は「生活の安定」を大きなテーマに、受け入れ準備や日々の運営をしてきた結果、1人の退去者も出すことなく無事に節目の年を迎えることができました。

これからの10年については、利用者の個々に合った「よりきめ細かなサービス」をテーマとし、サービス提供できるように努めます。さらに、まだ応えられていないもえぎの会の皆様のニーズや地域のニーズにも目を向けて事業を展開していきたいと考えています。



開所式の様子



当時の生活の様子

11月3日の文化の日と2月11日の建国記念の日の祝日は、恒例の祝日外出イベントでした。国民の祝日の中で、週の途中にある日は、イベントを企画し、グループホームの中で楽しんだり、外出して楽しんだりしています。



野外でBBQ！！@昭和記念公園



祝日の合同ランチ会 @楽園菜館

祝日のイベント

グループホーム生活の楽しみのひとつで、一緒に生活する仲間との共同活動です。ボランティアさん、大歓迎です。

発行：社会福祉法人もえぎの会

住所：目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部)電話：03-5724-7153

e-mail：shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

http://www.moeginokai.jp/



編集後記

法人、しいの実社・沙羅の家にとって今年は重要な年となります。課題を見極め、着実に乗り越えていきたいと思いますので、ご支援・ご協力よろしくお願い致します。(岡田な)